女剣士が人格排泄させられて
オナホにされちゃう話
基本CG10枚
総CG枚数195枚です。

私はクロア、冒険者だ。
遺跡の調査を引き受け早速
調べに来たのだが・・・
むちっ
しゅろっ♥
くっ・・・！
やっ・・・やめろ・・・！
しゅるっ
むちっ

触手で雁字搦めになるクロア。
彼女の視界の端をするすると触手が伸びていく…
意図を察してより一層抵抗を激しくする彼女だったが…
ハッ
するっ
するっ
あっ…!?
お、おいっ…
そっちは止めろっ…!
ちょっと…!

ヒクッ
メス
ビクビク
なにこれ

ぬぷぷ
にゃぁぁっ
ぬぷぷ
くっ…！
んっ…こっこのっ…♥
エロ触手っ…！
やっ…やめっ…♥
ぬぷぷ
ぱるっ
ぱるんっ
ぱるっ
ぬぷぷ
おま○こキツく締めたのに触手自体がぬめぬめしてにゅるって入ってきてしまった…
お、おのれぇ…っ！

ビュッ
ンん♡
ンんん♡
ンぁ♡
ンぁぁ♡

ぐぅ…♥
へ、変なモノを
中に出すんじゃないっ…！
ずるんっ
ぷぴっ
ぶるっ
ぶるっ
ぶるっ
ぶるっ
ぶるっ
遺跡の調査に来たはずなのに
なぜこんなことになって
しまったんだ…

それは遺跡の調査も大分進んできた頃だった…
深部を進むにつれ遺跡の雰囲気が変わり
魔物の気配も薄くなり、まるでなにか宗教施設じみた様相を呈してきたところに全身を布で包んだ怪しい一団が現れたのだ。
なんだコイツ等…？
魔物とは雰囲気が違う…

依頼の本命はこいつらか……！
ムムッ……
チャキッ
くくく……一人で我々と戦う気か？

何でこんな所に人間が…!?
気配も無く急に現れて…
こいつ等魔術師かっ…?
だとしたら不味い…
くそっ…!
道中の危険度の割りに
報酬がいいのもこれが原因か…!
ギラッ
ギラッ

敵と邂逅した瞬間
魔術師相手に一対多数の不利。
不自然な依頼報酬の多さ。
様々なことが脳裏をよぎるが
それは今考える事ではなかった。
ハッ！
うっ…!?
しまった…！
既に魔法を
詠唱されてるっ…!?
ポワ…

ふふふ…時間停止呪文…
一人では発動にも一苦労だが
複数人の魔力を集めれば
人一人拘束することなど
造作もないこと…
ビクッ
んんんっ
こうして私は奴らに捕まり
奴らの根城に連れていかれて
しまったわけだ…

謎の一団に拉致され奴らの本拠地に連れてこられた私はそこで奴らの飼う謎の魔物にこうして辱められているのだ…
なんて肉付きだ…この体で剣士は無理だろう
うっ…うるさいっ…！いいから早く拘束を解けっ！
カァァ〜
むちぃ
たぷぷ
しゅる
しゅる

おやおや…
まだ自分の立場が
分かってないらしい
ばるん
ゆさっ
！
ゆさっ
お前はもう
我らが神の供物なのだ
ばるんっ
くぱっ

く、供物だと…？
こ、こんな触手がお前らの神…
ヌルヌル
ヌルっと
ぎゅむっLL

おもむろに触手の一本がクロアのクリトリスに吸い付く。
突然の快感に彼女の体が大きく跳ねた。
ぷるっ
ぷるっ
くひっ…!?
やっ…変なとこっ!
触るんじゃないっ…!
ちゅうちゅっ
ぱぱぱぱ

次にクリトリスに吸い付いた触手の先が激しく動き始めた。
まるで彼女を愛撫し快感を引き出すかのように…
ぬるっ
あっ
んっ
ぬるっ
ぬるっ
ずりゅっ
ずりゅっ
どりゅっ
どりゅっ
どりゅっ
どりゅっ
ぬるっ
うあぁあぁぁっ…♥
ひぁっ…♥
くぅ…やめろっ♥
そっそこは敏感なんだっ…♥

んあああっ!!
あっ!?

くっ…♥
はぁっ…♥
はひっ…♥♥
はぁ…」
こ、こんな
下等生物に…っ♥
我らが神も
お前の事が
気に入ったみたいだぞ？
ふふふ…
盛大にイったなぁ？
はぁ…」
ぬくっ」
ぬくっ」
ぬちゃ

ふふふ…
迷宮の奥でこんな快感にありつけるなど中々ないぞ
くっ…♥
黙れっ…！
お前ら後で全員殺してやるっ…！

その威勢のよさ
どこまでもつか楽しみだ
ムムッ
んっ
んっ
今度は何だ…？
どんな事をしようと
私は屈しないぞ…！
むにゅ
むにゅ
どちゅっ
どちゅっ

男たちはクロアの乳房に手を当て詠唱を始めた。
怪しい動きに警戒をするも触手に拘束された状態では彼女に為す術は無かった。
ぽっ
ハッ!!
ぽわ
うねっ
うねっ
…っ!?
おっぱいが…熱いっ…!?
おい…何をっ…!

いっ!?
おっ…おっぱいがっ…!?
ぷるるんっ!
ぷるんっ
ぱふぱふ
ふふふ…
大きさだけじゃないぞ…

男たちが唱えたのは乳房が肥大化する呪文だった。
それを見計らうかのように彼女の膣に深々と突き刺さった触手も暴れ出す。
ぼるん
ぼゆん
ひぁっ…♥
あぐっ…あっあっ♥
ま、またっ…♥

あぐ…はぁ…♥
はぁっ…♥
あぇ…？
おっ…おっぱい
出ちゃってるぅ…♥
もわっ
ぱふっ
はうぅ
はぁ…
うぅぅ…♥
わ、私の体が
改造されていくぅ…♥
ぱふるぅ
くくく…肥大化しただけ
ではなく母乳も
出るようになったのだ
ぬぽ…♥
ぱふ…♥

ん…」
ビクッ！
ビクッ！
んぁっ」
あっんっ…♥
んんっ…も、もうやめっ…♥
いっ…いくっ…♥♥♥
ふふ…またイッたようだな…
我らが神もお前の膣をいたく
気に入ったようだぞ…
ぬちっ」
ぬちっ」

だがまだ物足りないようだな我が神は…
へ…？な、何が…
れろ～～ぺろ
ぬくっ
とろっ
とろっ

ぱぁぁぁん
ぱぁぁぁん
ぱぁぁぁん

ぬちゃ
ぬるっ
どくっ
どくっ
どくっ

どうだ？二穴同時に射精される気分はまたイッてしまったんじゃないのか？
ふっ…ふんっ…この程度じゃ…♥♥♥♥♥
んぐぅ
ぉっぉ
ぶぴっ
ぬくっ
ぬくっ
ぐぽぉ
どろ…
ぬぽんっ

ズブブブ
ズブブブ
ズブブブ

さて、そろそろ準備が出来たころだな…
はーっ」
はーっ」
ふくっ」
ふくっ」
じゅ、準備だとぉ？
何の準備だ!?
ただ単に私の体を下等生物に辱めさせていただけじゃないか…！

こっ・・・これ以上まだ何かあるというのか・・・っ？
そもそもコイツ等の目的はなんだ？
キリッ！
くそっ・・・分からない事だらけだ・・・
兎に角この状況を何とかしないと・・・！

ふふふ…それでは
取り出すとしよう…
『お前自身』を…
ぴくっ…
やっ…!?
な、何これ…っ!?
体の中が光って…
何の呪文だっ!?
ボワ…

男が呪文を唱えるとクロアの尻の穴からスライム状の物体がぬるりと這い出てきた。思わぬ感触に身を慄かせる。
ぞくっ!?
ぞくぞく
おぁぁっ!?
なっ…おぉっ…
お尻からっ…
何か出てっ…!?
にゅるるるる
ぱっくん
ぱっくん

これはお前の自我をスライムに閉じ込める呪文だ…
じっ…自我をっ…!?
さっきまで我が神が注いだ体液はお前の精神を肉体から分離させやすくする効果があったのだ
そっ…そんな…!
ぶるっ
ぶるっ
ガクッ
ガクッ
ぐぐぐっ
ガクッ
ガクッ

ズッ
ヒクッ!?
おおおっ
すごい
ぶちゅ
ぶちゅぶちゅ

くくく……！
これでお前の肉体はもう
ただの道具だ……
……
ぬくぅ
とろぉ～
ぽっかり
……!?
わっ……私は一体……
どうなってしまったんだ……!?
ぐろん

クロアの眼前に奇妙な光景が広がっていた。
己がいつも姿見でよく見る自身の姿を見下ろしていたからだ。
くたぁ
むちぃ
むちぃ
ふふふ…信じられんのも無理はないか…

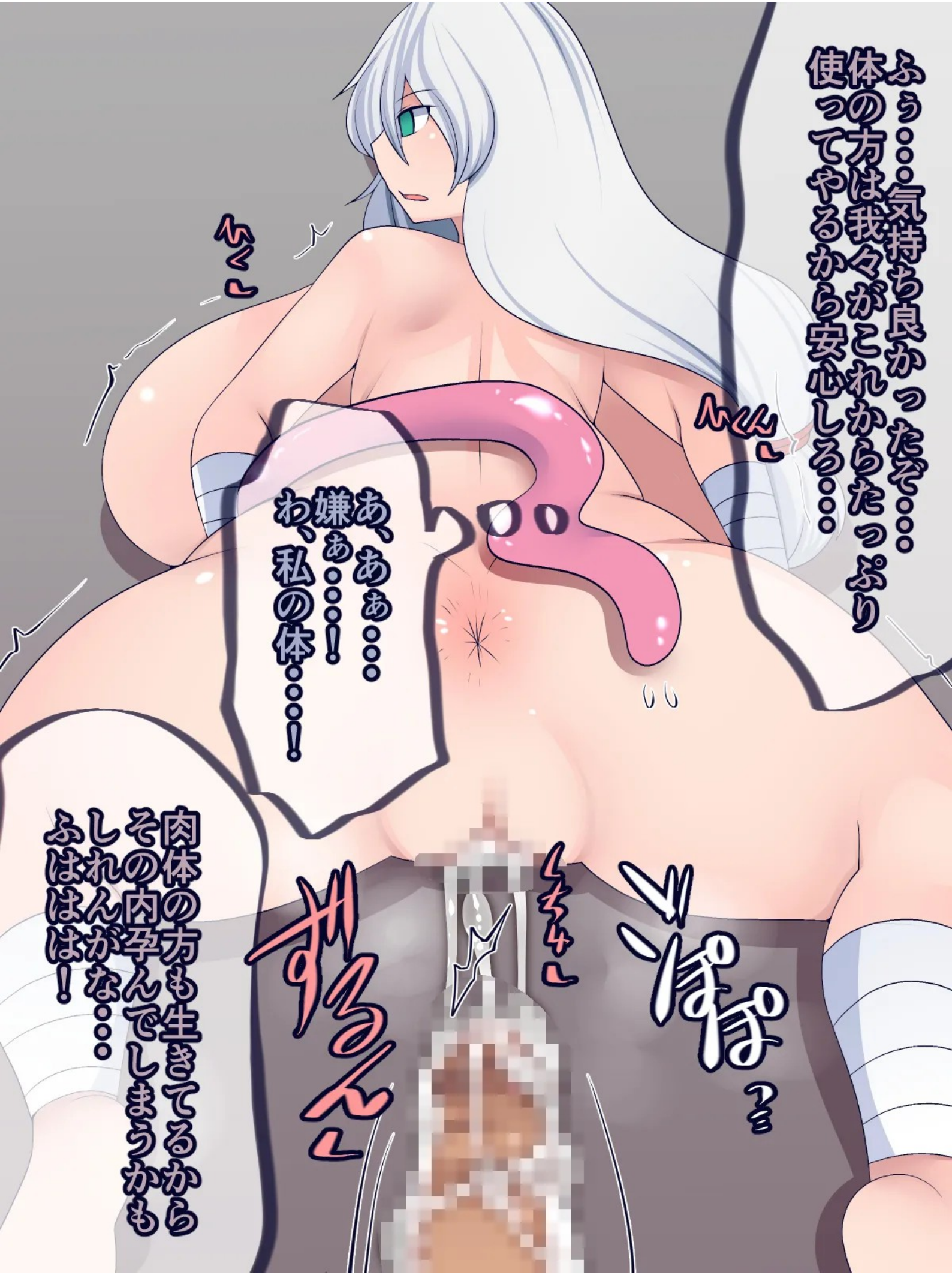
だが、目の前にあるのは
紛れもなくお前の体だ…
そしてそれを見下ろすお前は
そこから抜け出た人格だけの
存在だ
…
あ、あぁ…
こ、こんなことが…
ぷるん
ぷるん
ズッ…

ぱくっ
あっ…!?
な、何をするっ…!
肉体だけとなったお前は
意志を持たぬ肉塊…
しこ…
どく…

つまり正真正銘
我々の性処理玩具と
なったわけだ
ぴくっ
ぴくっ
やめろぉっ…！
私の体を辱めるなぁっ！
どぷっ
ぬぷぷっ
くぉ…く…
中々締まりのいい穴
だな…っ！

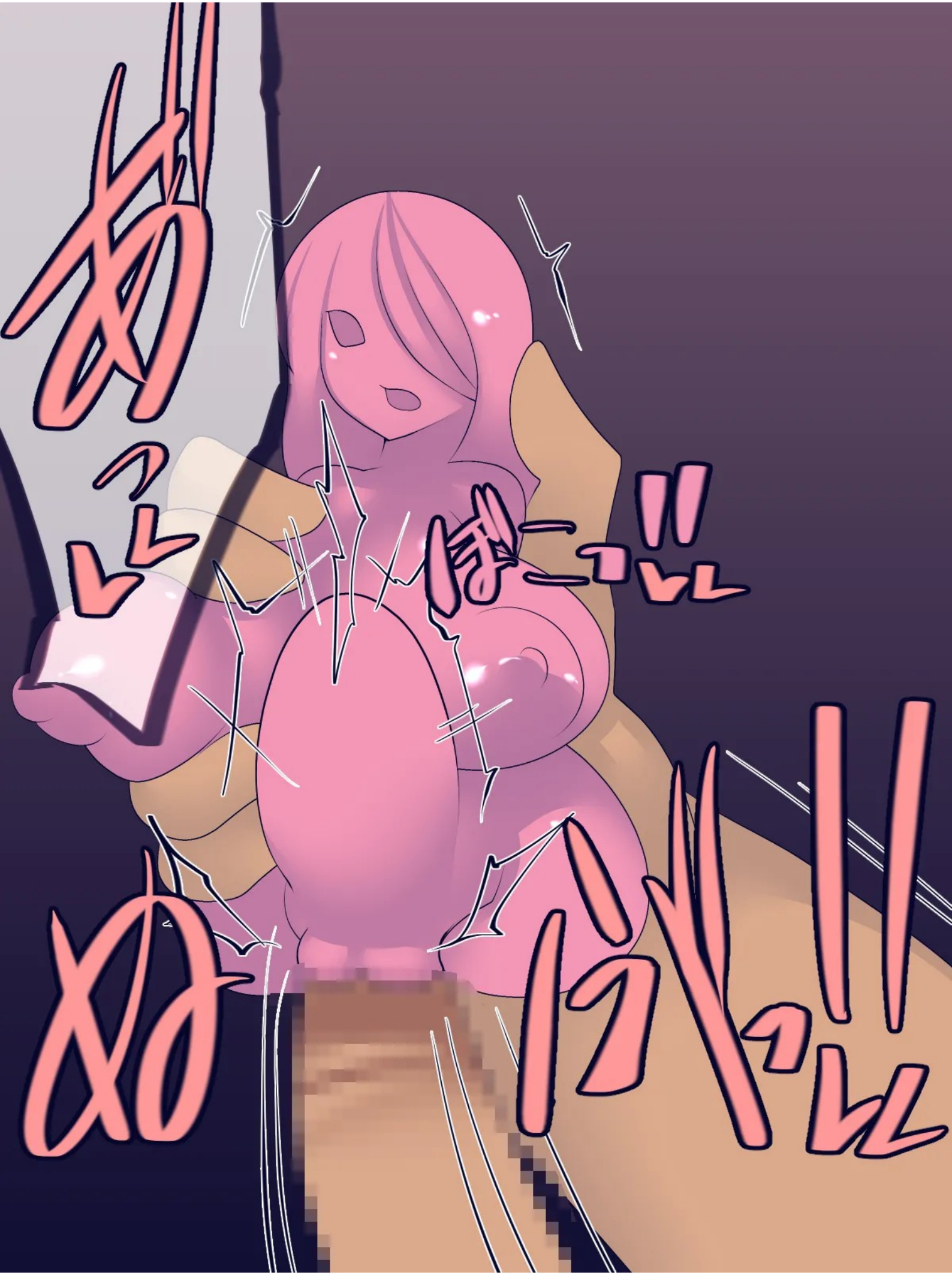
ふはは っ！
我らの神が夢中で貪るのも
分かるぞっ！
ぱん」
ぱん」
ぬぷっ」
ぱんっ」
ぱん」
やめっ…
やめろぉっ！
ち○ぽに吸い付いて
離れん…お前は優秀な
オナホになれるぞっ！

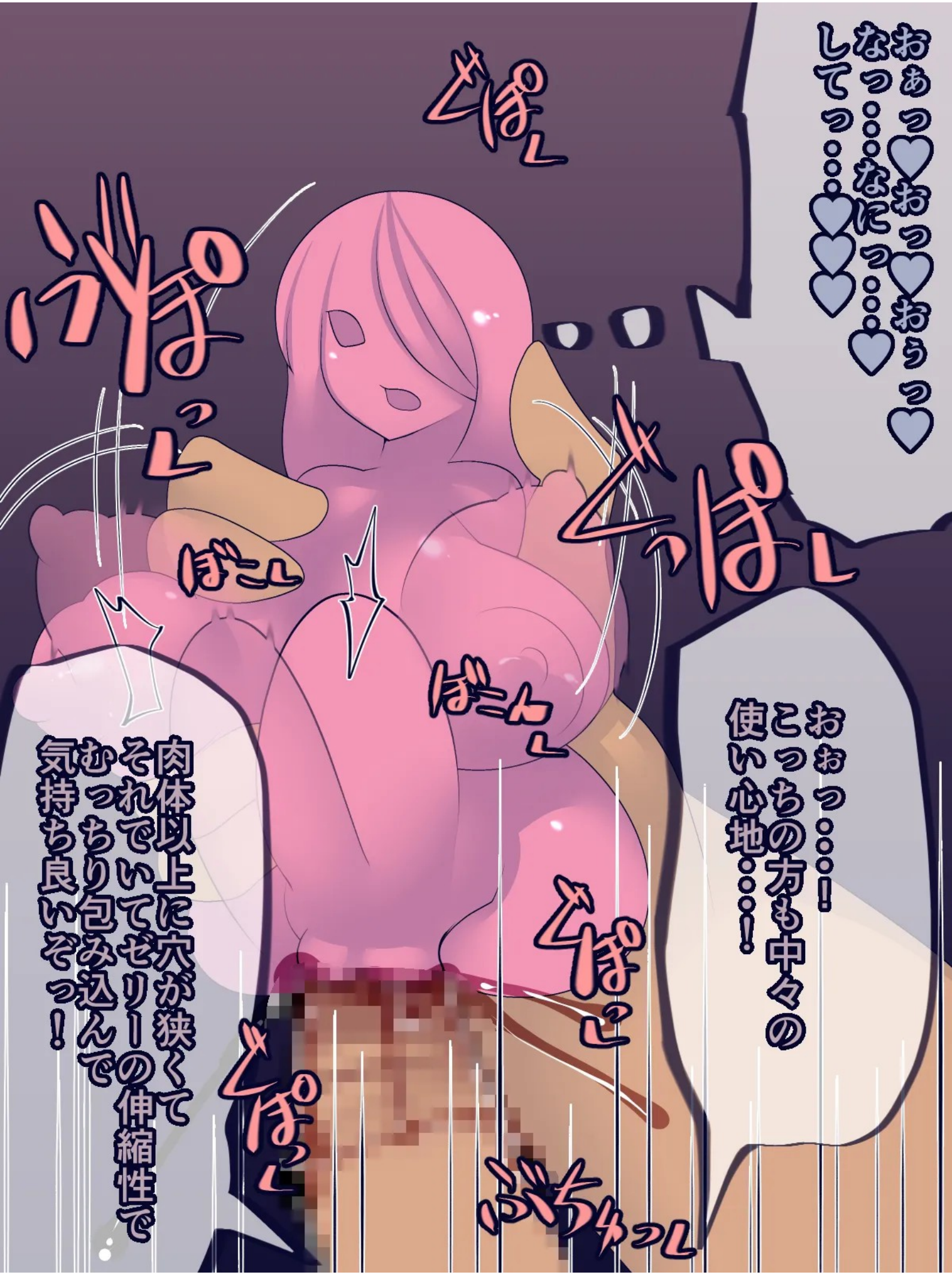
ミッ
レレ
ぐぐっ
どぴゅっ
ドクン
いやぁぁぁっ！
びゅるるるっ
射精るっ


ふぅ…気持ち良かったぞ…
体の方は我々がこれからたっぷり
使ってやるから安心しろ…
んくっ
んくん
あ、あぁ…
嫌ぁ…！
わ、私の体…！
ぽぽっ
くちゅ
ずるん
肉体の方も生きてるから
その内孕んでしまうかも
しれんがな…
ふはは！

自分の体を無抵抗で蹂躙され
失意のどん底にいたクロアだったが
彼女の人格が押し込められた
ゼリーの方にも奴らの魔手は伸びるのだった。
な、何だこの姿は…!?
ひ、人型に…!?
ムニー
ムニー
くくく…
ただの塊では可哀そうだと
思ったのでなぁ
肉体の方の姿に寄せてみたぞ

まぁ、勿論…
それも意味があるのだが…
…っ!?
な、なんだ…熱いのが
体に押し当てられて…
こ、この感触はっ…!?
ぬるっ
ビキ
ビキ


あっ
ぼーっ!!
ぬるっ!!


おぁっ♥おっ♥おうっ♥
なっ…なにっ…♥
してっ…♥♥♥
どぽん
ぶぽっ
どぽっ
ばーん
どぽっ
おぉっ…！
こっちの方も中々の
使い心地…！
どぽっ
どぽっ
ぶちゅっ
肉体以上に穴が狭くて
それでいてゼリーの伸縮性で
むっちり包み込んで
気持ち良いぞっ！

ぬぬぬ
ぱぁ
ぱんぱん
ビビビ
ビビビ
ビビビ

んぶぉ…おぐっ…♥
か、体はゼリーにされたのにっ…♥
ちゃ、ちゃんと感覚が残ってる…♥♥
むわっ
でろっ
ふー…
ゼリーオナホの方も
中々良い出来ではないか…
まるでオナホになる為に
産まれてきたような女だな

肉体と人格により分けられてからも
男たちの執拗な責めは続く。
二つに分けられたことで快楽と屈辱は
二倍になり、クロアの限界は確実に近づいていた。
も、もう止めろぉ…
こ、これ以上は…
ぶるっ…
ぶるっ
私の心が…
壊れる…
ひひひ

元に戻して…
戻してくれっ…
うわぁっ!?
どどど…」
ぶたっ」
ん…?
そんなに元に戻して欲しいのか?
じゃあ戻るといい
自分の体の中にな…
ぺんぺん

そ、そういう意味じゃ…
ついでにち○ぽも入れてやろう…
ぐぃー
ぺとー
ぷちゅん
ぬちゅうう

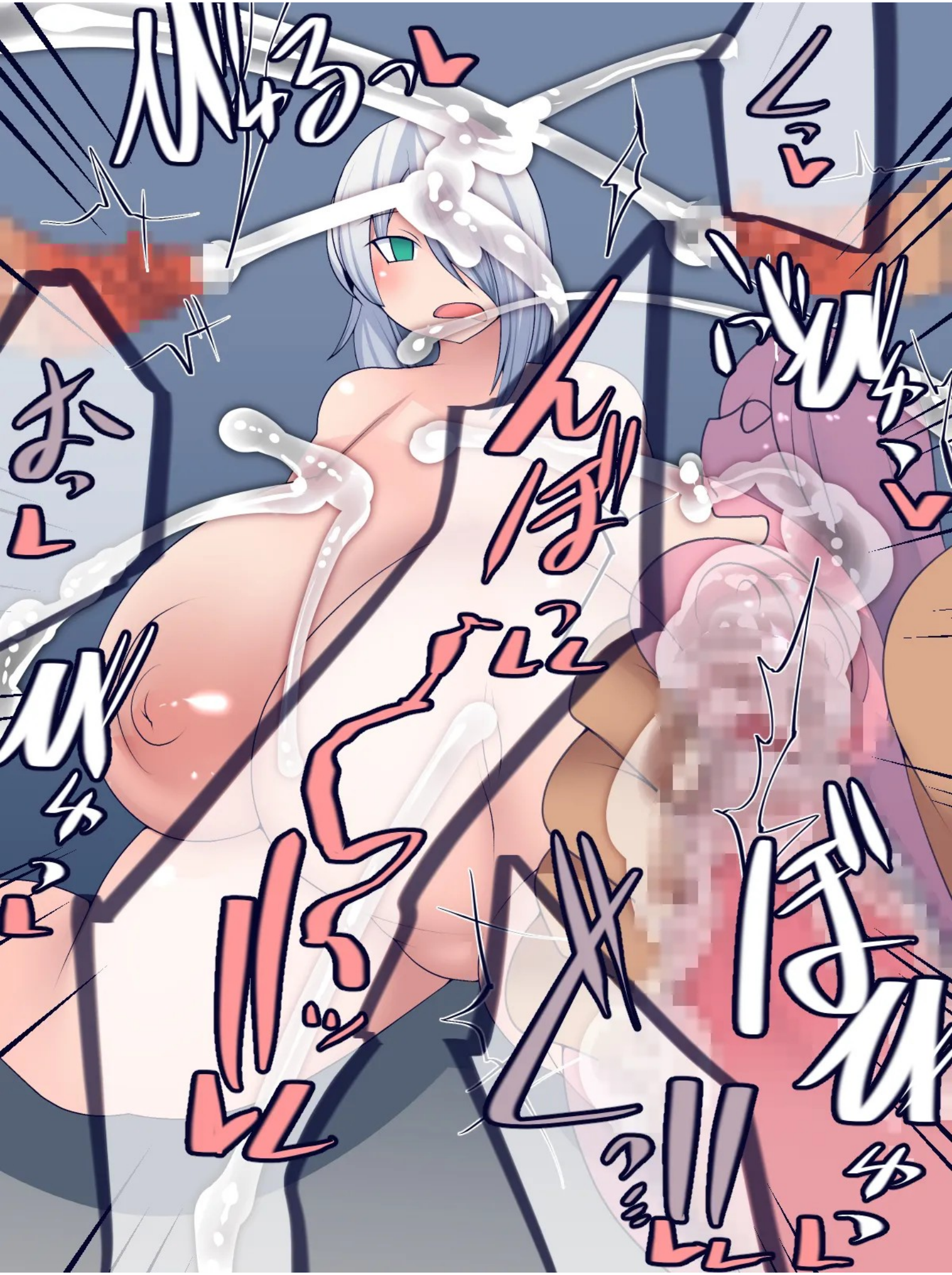
男の一人がおもむろにオナホのクロアを肉体の方のお○こに頭から捻じ込みその上からち○ぽを突っ込んだ。
ぬりぃ
ぎちぎちぃぃっ
んなっ…!?なんてことをするんだお前っ…♥おほぉっ♥♥♥
むぅ…これは中々…
ぐぐぐぐ
ぐぐぐぐ

ふふふ…どうだ？
念願の自分の体の中は？
こちらも具合がいいぞっ…！
オナホの分だけ狭くなって
極上の締め付けだっ！
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ

はー…はー…！
ふはは！最早オナホか避妊具か分らん有様だな！
それ気持ちよさそうだな次は俺にやらせてくれ…
あが…あ…あぁ…♥♥♥
ぎ…ぎもぢぃ…♥
ぜんしん…おま◯こになったみたぃぃ…♥♥♥
にゅっ
にゅぢゅっ
たぷ
たぷ
べとっ
べとっ
パンっ
パンっ
パンっ…

それから数日・・・
クロアは身心共に弄ばれ、肉体の方は
驚異的な速度で誰のモノとも分からぬ
種を孕んだ。
これも我らの神のご加護だと
宣う男達の声は
最早彼女の耳には届かなかった。
ぼてっ

おひっ…おぉっ♥♥♥
おち○ぽぉっ♥
もっとえぐってぇっ♥♥♥
ずちっ
ずぽっ
ずぽっ
ずちっ
ずぽっ
くぉっ…おっ…！
ま、また出るぞっ…！



しゃろ〜
しゃろ
ハァ〜
ハァ〜
ふぅ…
いい頃合いにゼリーの方も
屈服してきたな…
そろそろ我らが神の供物に
相応しかろう…
肉体の方はこのまま
我々が有効利用させてもらう
使い物にならなくなるまでな
はっはっは！

放心状態のクロアの頭上に触手が伸び彼女を取り込んでいく・・・精神力を徹底的に消耗され体の自由を奪われた彼女に為す術は無かった・・・

度重なる依頼の失敗を重く見たギルドは国に歎願し、討伐隊を派兵する。そこで兵士たちは、洞窟の中に人工的な空間を発見、魂を抜かれた女性冒険者達を発見したという。それ以外は痕跡も無く事件は迷宮入り。唯一現場には神顕現級の魔力濃度が検知されたという・・・

終わり

クロア
男勝りな女剣士。
剣の腕は確かなのだが
体は敏感なのが弱点。
とある迷宮の調査を依頼され
一人現地に赴くのだが・・・